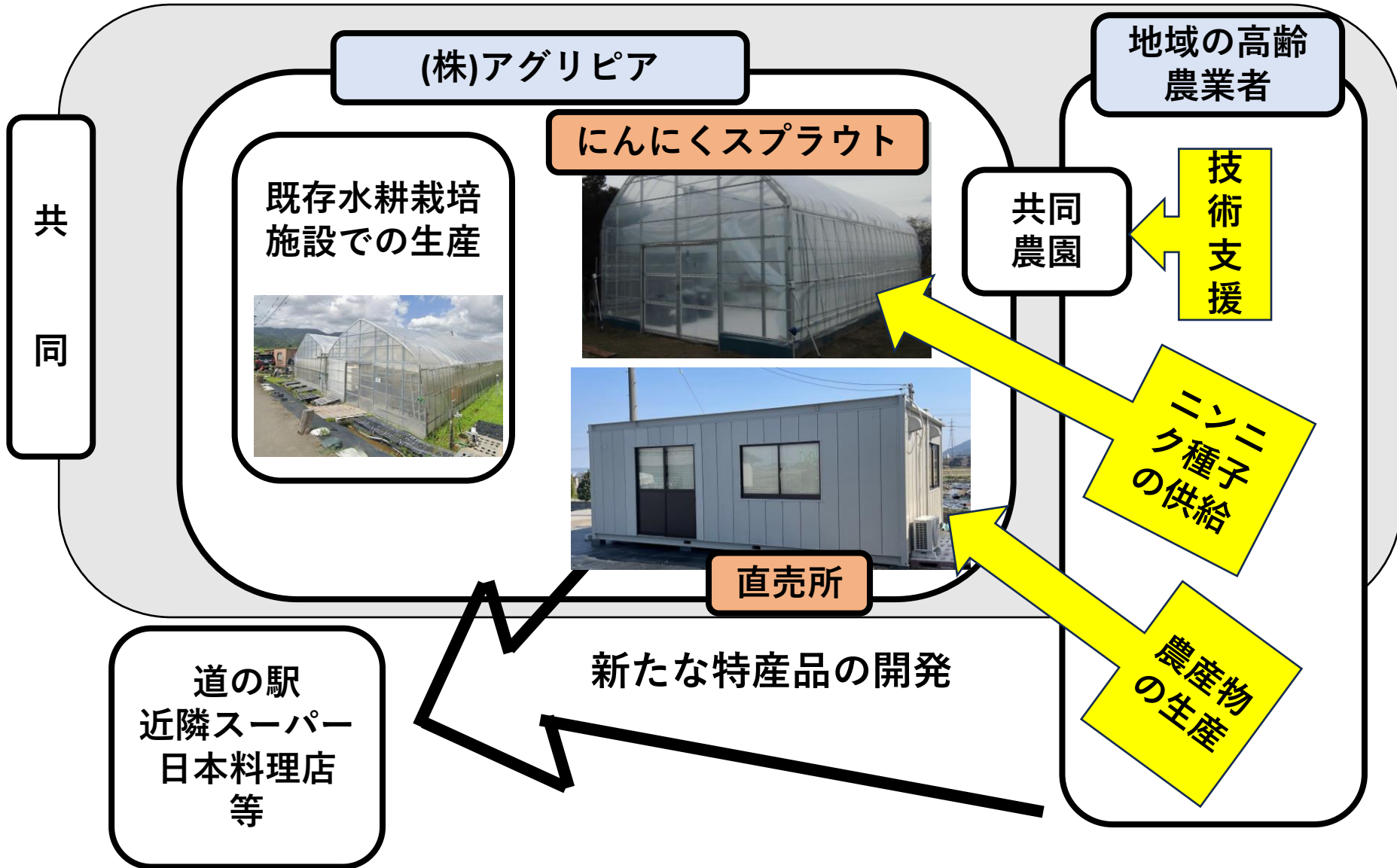


岐阜県の農福連携プラス推進モデル事業

(株)アグリピアと地域の高齢農業者の取組



- コーディネーターによる伴走支援
 - ①課題解決にかかる経営支援
 - ②にんにくスプラウト栽培に係る支援
- にんにくスプラウト専用ハウスの設置
54 m²、水耕システム、管理機器一式
- 直売所用ユニットハウス
34 m²、電気、水道工事等一式

(株)アグリピアの農福連携プラス推進モデル事業の取組について

(一社) 岐阜県農畜産公社
ぎふ農福連携推進センター

1) 地域の概要

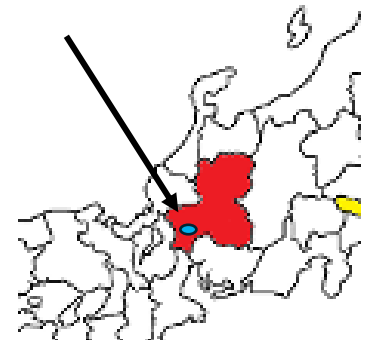
(株)アグリピアが所在する岐阜県海津市南濃町は、岐阜県南西部にある市で、(株)アグリピアがある旧南濃町地区に山地があるが、旧海津町、旧平田町地区はほぼ全域が海拔ゼロメートル地帯である。

市の中央を流れる揖斐川から東側の地域では長良川との間に輪中が多くみられ、一方揖斐川から西側の地域には養老山地があり、その麓に扇状地や平地が広がっている。

農業生産は、旧海津町・旧平田町地区と旧南濃町地区において特色が違い、旧海津町・平田町地区では、広大な水田を生かした土地利用型農業法人が米・小麦・大豆の作付けを大規模に行っている。

また、トマトやキュウリ、いちごなどの施設栽培も盛で、特に冬春トマトは、県内で出荷される量の90%あまりを占めている。

(株)アグリピアが所在する旧南濃町地区では、低地を中心に米や野菜づくりが行われている。また、山麓を中心に柿やみかんなどの果樹が作付けされていて、特にみかんは岐阜県で唯一の産地で、「南濃みかん」として知られている。



2) (株)アグリピアの取組

平成24年9月に就労継続支援B型事業所「アグリピア農場」を設立し、事業所として水耕栽培でリーフレタス等の葉物野菜の生産を開始した。

また、障がい者アートの発信にも積極的に取組など、「挑む」「魅せる」「学ぶ」を合言葉に、常に先を見据えた活動を行っている。

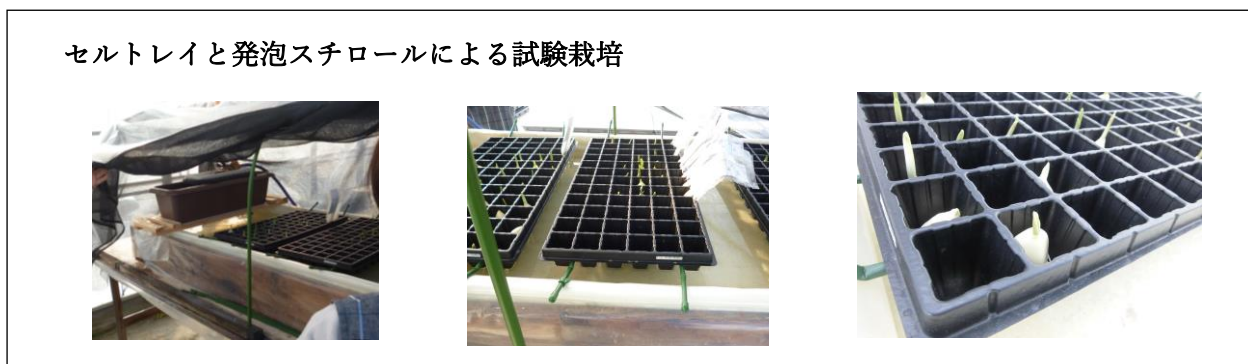
令和5年11月にB型事業所名を「たのしいフルハウス」へ名称変更し、より地域社会と共存し、社会貢献する事業所を目指している。

3) 農福連携プラス推進モデル事業の取組

① にんにくスプラウトの生産及び販売への取組

令和6年1月から試験を始め、本事業の採択を受け、本格的に試験栽培を11月から開始した。

岐阜県農業ジョブコーチから障がい者でも対応できる栽培方法の助言を受け、水耕栽培ハウス内に簡易プラントを設置し、セルトレイを活用し試験栽培を始めた。



岐阜県農業ジョブコーチとともに障がい者が地下水の水質確認による水質の改善や「スプラウト生産における衛生管理指針（農林水産省）」の内容確認及び準拠、にんにくの褐変等変色対策などの技術の構築を図ることで、当初の月産10.8袋（令和6年1月～10月：108袋）から48.5袋（令和6年11月～令和7年2月：194袋）と大幅に生産量が拡大した。

小ロットながら試験栽培での生産量も増加したことから、試験販売も開始し、名古屋市栄にある岐阜県のアンテナショップや近隣の大型スーパー2か所に出荷を行った。（1袋当たり4～5個入り（40～50g））



にんにくスプラウト



名古屋のアンテナショップ



陳列の様子

また、大垣市内にある老舗日本料理店では、ニンニクスプラウトのてんぷ

らを料理として提供していただき大変好評だった。



日本料理店の天ぷら

本事業を活用し建設したにんにくスプラウト専用栽培施設は、試験栽培で培ったノウハウを活用し、障がい者が安心して作業できる施設として建設した。(詳細は別添の報告書)



新設したにんにくスプラウトの専用ハウス

②地域への取組

従来から多様な露地品目の生産には地域の農業者からの支援を受け、生産を行っていた。

しかしながら、地域内農業者とは点のつながりしかなく、また、支援を受けるのみで、アグリピアの地域への貢献という面はできていなかった。

そこで、岐阜県農業ジョブコーチからの提言を受け、本事業で設置する直売所をうまく活用し、地域の核となるよう取り組んだ。

近隣の高齢農業者が生産した農産物を新設する直売所で販売したり、にんにくスプラウトの種子生産の委託、さらに、隣接する畑で、里芋を共同で生産するなど、障がい者が運営する直売所が身近な存在となり、(株)アグリピアが地域の核となるよう取り組んだ。



新設した直売所